

東大阪市下水道事業の概要



令和5年(2023年)6月27日
東大阪市上下水道局
下水道部下水道総務室経営管理課



くらしイキイキ快適下水道



目次

1. 下水道の現状について
2. 東大阪市下水道事業について
3. 下水道事業経営戦略について
4. 経営戦略の進捗管理について



下水道の現状について

《下水道の3つの役割》

① 公衆衛生の向上や生活環境の改善 (汚水の排除)

家庭や工場から出る汚水を、下水道管で集めて速やかに排除することで、快適で衛生的な生活環境を提供している。

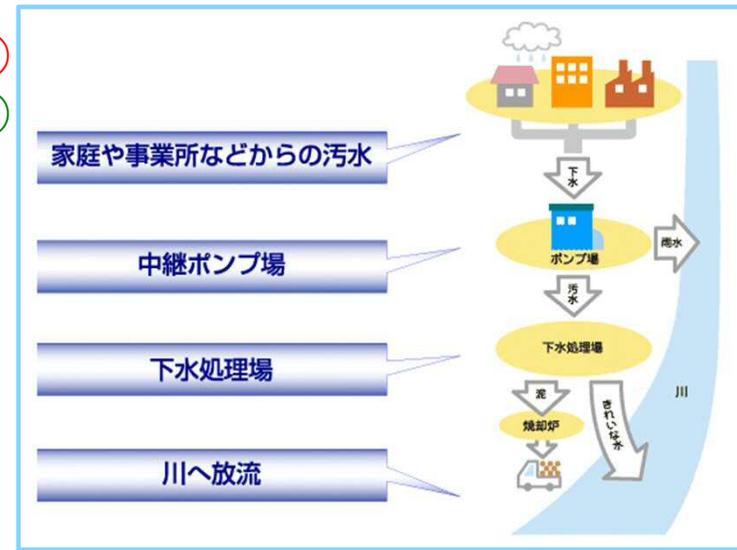
② 公共用水域の水質保全

下水道管によって集められた汚水を、下水処理場で処理してから放流することで、河川や海など公共用水域の水質を保全する。

③ 浸水の防除(雨水の排除)

街に降った雨を速やかに排除または貯留することで、浸水被害から守る。

①
②



③



昭和57年8月
時間最大雨量 40mm
連続雨量 112mm



下水道の現状について

《事業概要：下水道施設の概要》

市内は、4つの処理区に区分されており、各処理区の下水は大阪市・大阪府に処理を委託している。

管きよ	総延長 約1,163km(令和3年度) 整備人口あたり普及率 99.9%(令和3年度)⇒汚水設備は概ね完了
ポンプ場	中継ポンプ場:2施設(高井田ポンプ場、岸田堂ポンプ場) マンホールポンプ:12施設
処理区	・放出处理区:放出下水処理場(大阪市)にて処理 ・平野処理区:平野下水処理場(大阪市)にて処理 ・川俣処理区:川俣水みらいセンター(大阪府)にて処理 ・鴻池処理区:鴻池水みらいセンター(大阪府)にて処理

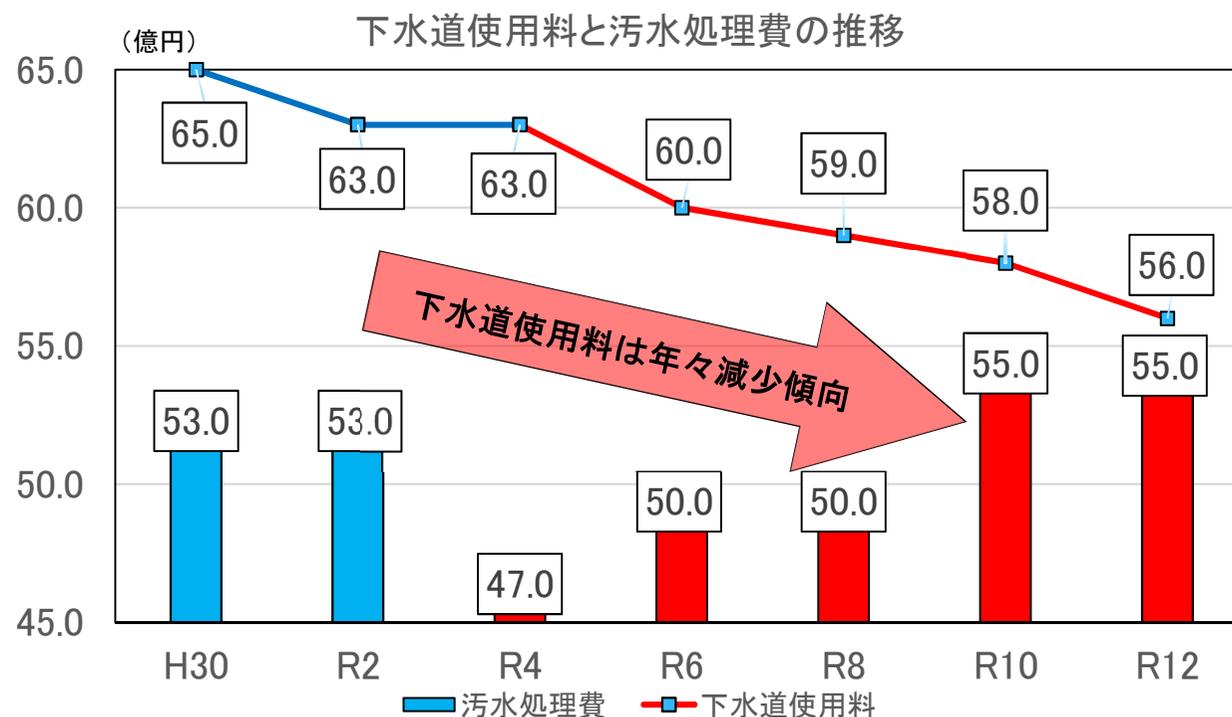


東大阪市下水道事業について

《現状：経営状況（汚水の排除に係る財源）》

人口減少等により、汚水の排除に係る収入である下水道使用料収入については毎年約1億円ずつ減少しており、今後も続くと予想される。

しかし汚水の排除に係る経費（汚水処理費）については下水道使用料によって全額賄うことができしており、今後についても賄うことができる見込みである。



※汚水処理費（棒グラフ）より下水道使用料収入（折れ線グラフ）が大きければ、経営状況が良い。（経費回収率が100%以上となる。）



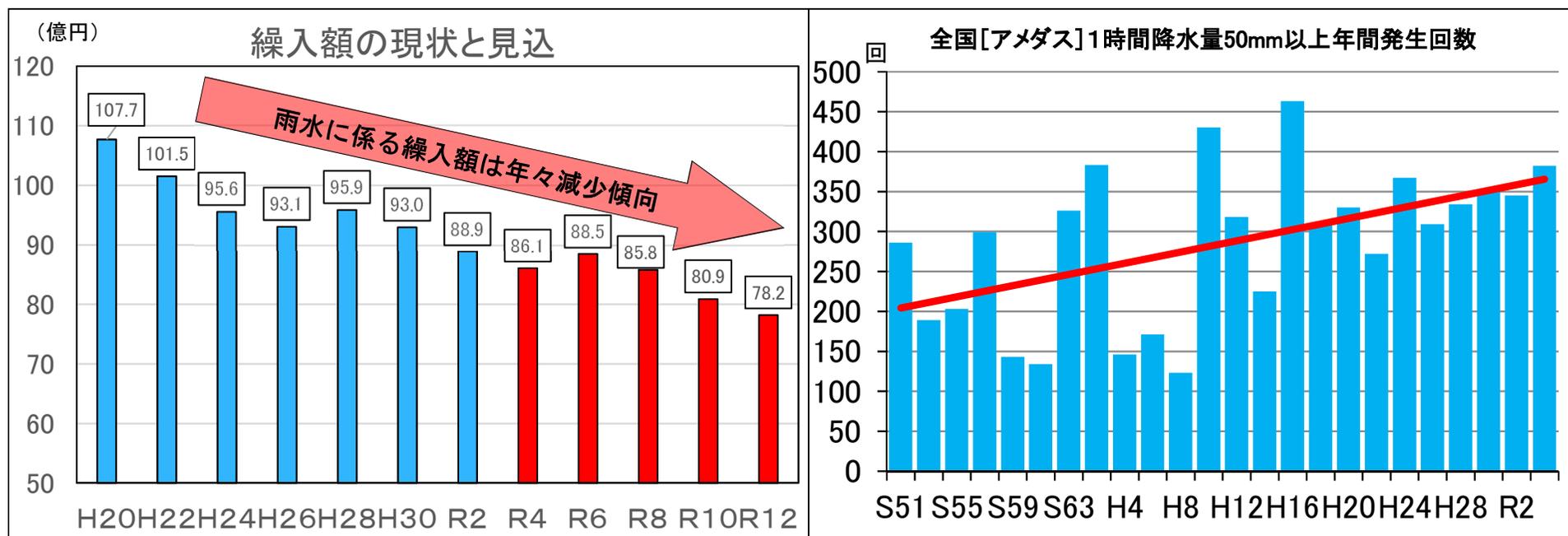
東大阪市下水道事業について

《現状：経営状況（雨水の排除に係る財源）》

雨水事業は市長部局からの繰入金(税金)で行われる。

本市は浸水(雨水)対策事業を重点施策として進めてきたため、繰入金の投入額は高額となっているが、近年は減少傾向である。

一方、ゲリラ豪雨など降水量は増加傾向のため、今後の雨水事業は予断を許さない状況である。

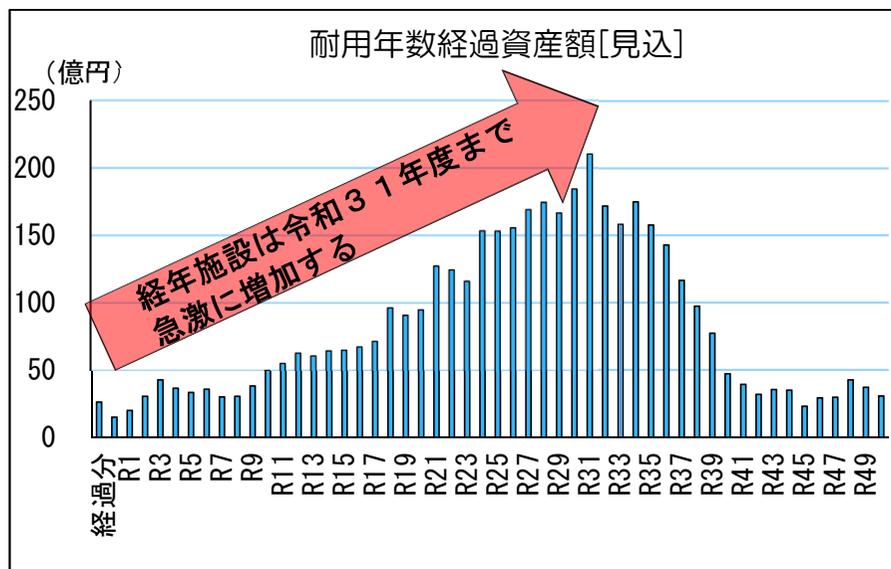


東大阪市下水道事業について

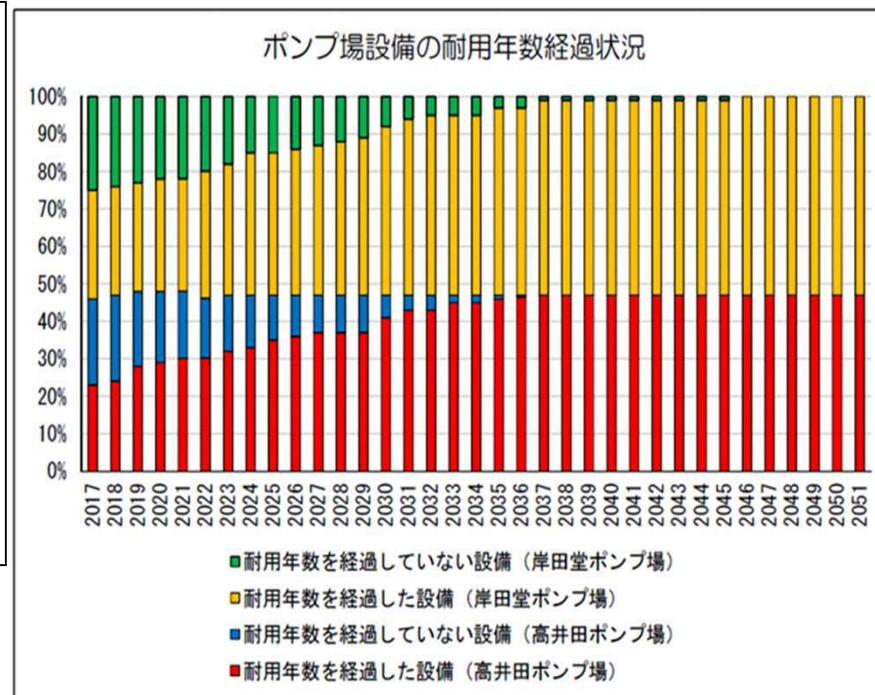
《現状：施設状況（下水道施設の老朽化）》

下水道施設は、昭和42年度～平成16年度に集中的に整備されているため、令和31年度まで耐用年数を超える施設が大幅に増加していく見込みである。

耐用年数を経過した施設が多くなっていくが、災害に備えた耐震化工事を実施しながら、適宜、点検・修繕を行うことで長寿命化を図り、計画的かつ効率的な施設の改築更新を実施していく。



※ 固定資産上の耐用年数を経過した年度の帳簿原価の合計額を表示しているものであり、当該年度に必要な改築更新費用を示したものではありません。



下水道事業経営戦略について

《経営基盤強化に関する事項》

下水道事業は、建設投資や企業債の償還等に多額の資金が必要となる事業であり、事業運営に支障をきたさないように、経営基盤の強化が必要である。

本市では、事業の現状と将来の見通しを踏まえた中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定し、経営基盤強化と財務マネジメント向上に努めている。



【収入面】

水洗化のさらなる促進や徴収の強化を実施し、下水道使用料収入の拡大を図る。企業債については、建設事業費を平準化させ、出来るだけ企業債の新規発行の抑制を図る。

【支出面】

発生対応型の維持管理から予防保全型の維持管理に移行し、施設の効率的な維持管理及び迅速な対応を進めることで経費削減を実施していく。

経営戦略の着実な実行により、下水道サービスの維持を目指す。9月審議会にて経営戦略における取組内容と進捗状況の報告を行う。



経営戦略の進捗管理について

《 1. 進捗管理の手法 》

(1) 全取組項目の進行状況評価

東大阪市下水道事業経営戦略（令和3年度～令和12年度）

フォローアップ

令和 3 年度評価

基本理念	基本方向	実現方策	施策	進捗	施策推進に向けた取り組み	最終目標	主な担当所属	進捗		
								進捗	備考	
市民	市民	A 市民との協働	1 広報と地域防災の向上	C	1 出前講座	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業への理解を得る 浸水に対するソフト面の対策を強化 	計画課	C	①出前 ②副課	
					2 ポンプ場の見学等	下水道の目的や仕組みなど、下水道を「見える化」し、関心を得る	下水ポンプ施設課	D	①見学	
					3 幅広い広報媒体の活用	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業への理解を得る 浸水に対するソフト面の対策を強化 	計画課	B	①Yo ②市E	
					4 下水道事業の説明（PR）	下水道事業の役割や実績に対して理解を得て、ソフト面の強化				
		B 質の高い	2 来庁せずに必要な情報・資料を得られる	B	5 透明性のある情報公開（入札）	入札・契約情報を適切に公開により、契約の透明性を確保				
					6 申請書類の掲載	全ての申請手続き等に関する申請書類の掲載				

参考
取組項目
(一部)



経営戦略の進捗管理について

(2) 全取組項目の評価基準(例)

取組項目における評価A～Dの数を集計し、取組の達成度を可視化します。

取組項目	評価A	評価B	評価C	評価D
33項目	12項目 (36.4%)	7項目 (21.2%)	3項目 (9.1%)	11項目 (33.3%)

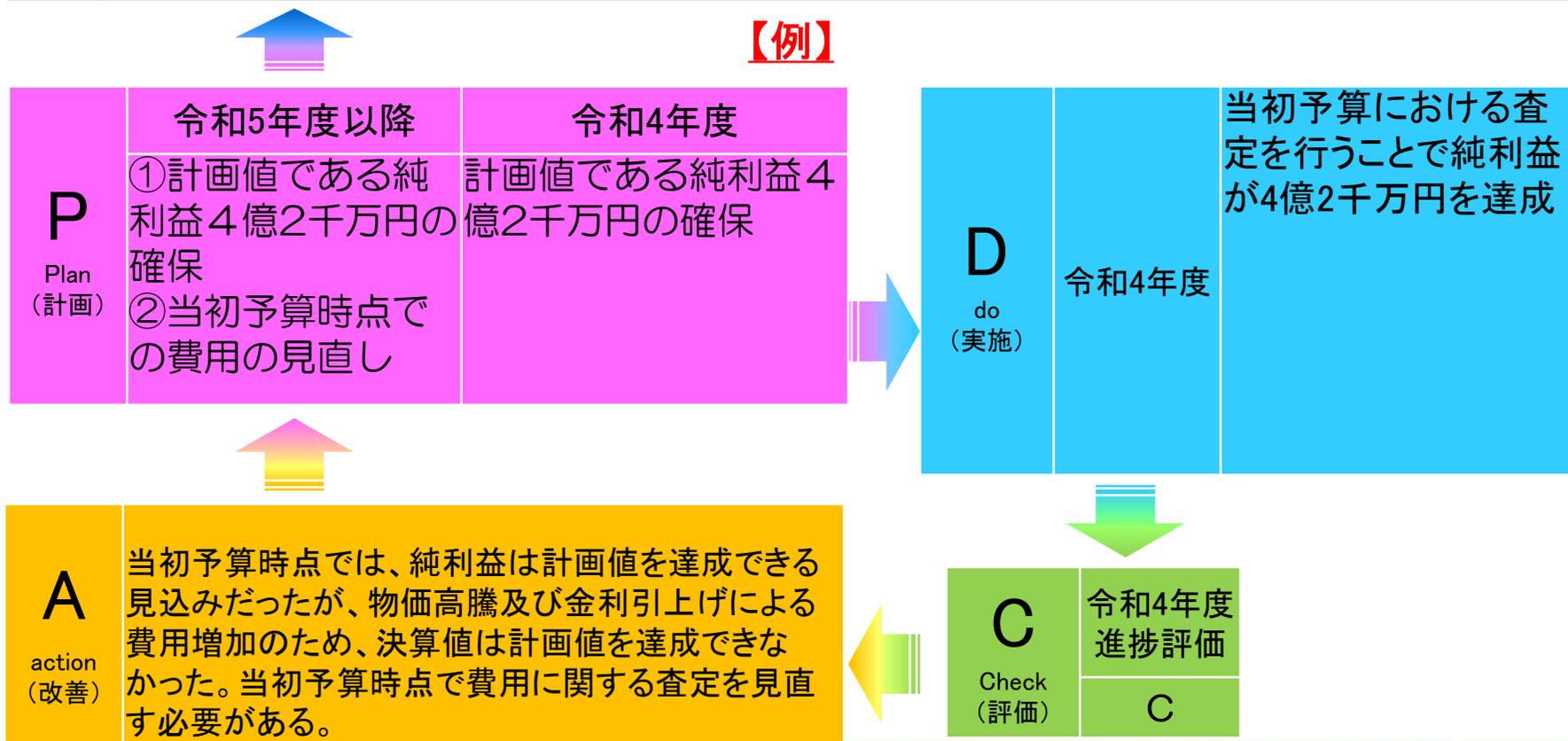
※各取組に対して評価基準を設定し、評価を実施しました
(評価基準例)

評価	共通	例1	例2
A	目標達成	計画値を超える	100%
B	目標をある程度達成	計画値と一致	50%以上100%未満
C	目標を下回る	計画値未満	50%未満
D	目標を大きく下回る	未実施	未実施



経営戦略の進捗管理について

No.	実現方策	財源確保	現状課題	令和2年度に策定した経営戦略では、経営状況は当面の間、厳しいながらも使用料改定をすることなく乗り越えられることが分かった ただし、最も経営状況が厳しい令和13年度前後の資金状況を踏まえると、経営戦略で設定した当年度純利益は維持、改善し続けなければならない
27	施策	秩序正しい財政運営の推進		
最終目標	経営戦略上の収支計画を維持、改善することで安定経営に寄与する			



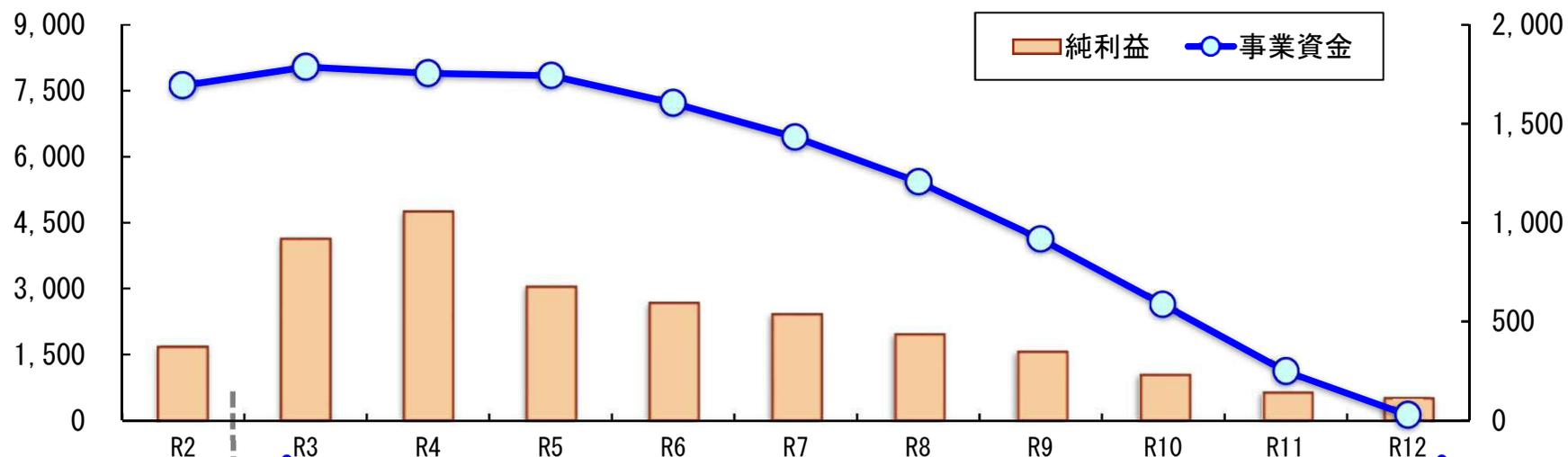
経営戦略の進捗管理について

《 2. 経営戦略に基づく財政状況のフォローアップ 》

事業資金残高
(百万円)

【 事業資金残高と純利益の推移予測 】

純利益
(百万円)



経営戦略に基づく計画期間

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
事業資金残高	7,618	8,042	7,895	7,843	7,221	6,440	5,425	4,128	2,634	1,118	120
純利益	371	916	1,054	674	592	536	435	347	229	140	112
備考	現状	計画最初							R10～ 一時借入が必要		計画最終

